

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
専門学校 北九州自動車大学校		昭和51年6月8日		加藤 雅人		〒802-0814 北九州市小倉南区蟻田若園1丁目2番24号 (電話) 093-962-6673																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人ぜんりょう学園		昭和34年4月6日		中村 文彦		〒802-0814 北九州市小倉南区蟻田若園1丁目2番24号 (電話) 093-962-6673																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	一級自動車整備科			平成23年文部科学省 告示第170号																		
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、自動車整備に関する学術理論実地技術を指導教育し、人類社会の福祉に貢献する有能なる技術者を養成する事を目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
4年	昼間	4031時間	1499時間		2532時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
200人		60人	0人	15人	5人	20人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験による点数と平常点を合算し100点を満点とする整数によって表す																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月4日 ■夏季:7月21日～8月25日 ■冬季:12月25日～1月9日 ■学年末:3月26日～3月31日			卒業・進級条件	当該科目のすべての授業に出席し、学期末の評点が1.2年次60点以上、3.4年次70点以上であるとき。 ただし、3年次への進級は2年次修了後、国家試験で二級ガソリン及び二級ジーゼルの両方取得すること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 無断欠席が発生した場合即日本人及び保護者との連絡を密にとることで欠席理由及びその解決策を講じる。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 校友会、学園祭実行委員会、エコランレースチーム、ラジコン同好会 ■サークル活動: 無																		
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 自動車販売会社(ディーラー) 建設機械関係 ■就職指導内容 進路担当教員と担任教員が学生一人ひとりにあった進路指導を入学直後から実施。 ■卒業者数 : 18人 ■就職希望者数 : 18人 ■就職者数 : 18人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他 なし (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>18名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>9名</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>9名</td> <td>9名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	18名	11名	二級ガソリン自動車整備士	②	9名	9名	二級ジーゼル自動車整備士	②	9名	9名
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
一級小型自動車整備士	②	18名	11名																				
二級ガソリン自動車整備士	②	9名	9名																				
二級ジーゼル自動車整備士	②	9名	9名																				
中途退学の現状	■中途退学者 7名 ■中途退率 10% ■中途転科者(流出) 1名 平成28年4月1日時点において 在学者 69名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 61名 (平成29年3月31日卒業者をを含む) ■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 家庭の経済的理由による就職への変更。学習意欲低下。学業不振。 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例) カウンセリング・再入学・転科の実施等 授業後の理解力と平均的学力到達度を確認しながらの指導と教職員全員に周知することで日頃の行動等を注意深く観察し担任への協力を行う。																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度…学業・人物ともに優秀な方を支援する制度で、特待生試験の結果が優秀であった合格者に適用 グループ校奨学金制度…受験生本人、もしくは2親等以内の親族が本校・グループ校の卒業生もしくは在学者である場合に適用 女子奨学金制度…将来、自動車整備士として活躍する女子入学生を支援する制度で、女子入学者全員に適用。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 平成28年度 該当者なし																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	http://www.kamc.ac.jp																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムに関して、自動車整備士として必要な実践的かつ専門的な能力を育成するべく構成されるよう、その内容を検討し、職業教育水準の向上を図る事を目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会で検討された内容は、開催された会議ごとに意見を取りまとめた上、学校内に公表し、カリキュラムの改善に活用することとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
加藤 雅人	専門学校 北九州自動車大学校 校長	2017.4.1～2018.3.31	
清末 裕貴	専門学校 北九州自動車大学校 副校長	2017.4.1～2018.3.31	
梶島 大希	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 北九州事務所所長	2017.4.1～2018.3.31	①
桑原 淳	ネットヨタ北九州株式会社 サービス部課長	2017.4.1～2018.3.31	③
勢 隆	北九州ダイハツ販売株式会社 代表取締役社長	2017.4.1～2018.3.31	③
池内 修一	株式会社オートプラザウチ 代表取締役	2017.4.1～2018.3.31	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年度年2回を目途に実施。実施時期は学期の区切りを目途に設定している。

(開催日時)

第1回 平成29年10月26日(金) 10:00～11:00

第2回 平成30年2月中旬開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

授業科目やその内容について会議の場で都度確認していただき、改善の必要性がある科目については積極的に改善。また自動車新技術の導入が進んでいることから、本校で使用している実習機器・設備と現場で使用しているものを比較し、外部診断機等、改善の必要性がある機器の新規導入を実施。平成28年度教育課程編成委員会にて取り上げられたディーラーのトレーニングセンター見学は、早速平成29年度生から実行に移し、学生の勉学意欲に良い影響をもたらしている。国家試験問題の傾向と対策についても委員から意見を伺い、合格率向上の参考としている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の要請を十分にいかしつつ本校専門課程の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習の授業を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業等と協定を結び、実習・演習等を実施。授業内容や方法及び学習成果の評価について企業等と連携を行う。学修成果の評価については、学生が修得した技能を含む実践的かつ専門的な能力について評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
社会教養学	全般的な基礎学力向上と応用力や判断力等を含めた総合的な能力を育成する。 (連携内容)就業現場まで学生を引率して出向き、現場の雰囲気を感じるとともに、エンジニアの仕事内容や社会人としての心構えを修得する。	ネットヨタ北九州(株) 北九州ダイハツ販売(株) 福岡トヨタ自動車(株) トヨタカローラ福岡(株)
自動車整備作業 自動車検査	自動車を構成している部品の確認と分解・組み立て・点検・調整、日常点検、車検整備などを行い、整備作業・検査技術を修得する。 (連携内容)様々な車両や新技術についての知識を修得する。	マツダ(株) 九州マツダ(株) 福岡スバル(株) スズキ(株) スズキ自販福岡

<p>体験実習</p>	<p>企業と連携し、実務実習として実際の現場で職業体験を行う。 (連携内容)各個人毎に指定された実習現場において職業体験を実施。実際の業務、先輩からのアドバイス等を通して職場の理解を深める。</p>	<p>福岡トヨタ株式会社 福岡トヨペット株式会社 福岡日産株式会社 日産プリンス福岡販売株式会社 ネットトヨタ山口株式会社 株式会社ホンダカーズ福岡 北九州ダイハツ販売株式会社 大分ダイハツ販売株式会社 株式会社スズキ自販福岡 いすゞ自動車九州株式会社 株式会社バージョングループ ヤマトオートワークス株式会社</p>
-------------	---	---

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専攻分野における実務を本校専門課程の教育内容や方法に反映した教育活動を実践するため、企業等と連携して、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目的とする組織的な研修を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

「福岡トヨペット株式会社」主催の技術研修会に参加し、FCV(燃料電池車)「MIRAI」の新技術・新機構の学習と体験を受講。その他、「ダイハツ工業株式会社」主催の技術研修会に参加し、EcolDLEシステム、アイドリングストップ制御、故障診断等について受講。他にも多数研修に参加。

② 指導力の修得・向上のための研修等

「全国自動車大学校・整備専門学校協会」主催の教職員研修会に参加。青年期の心理と若者気質の変遷、コーチング&コミュニケーション技法、問題解決手法を用いた事例グループ研修などを受講。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「マツダ株式会社」主催の技術研修に参加し、SKYACTIV DIについての座学及び実習、I ACTIV SENSEについて座学及びエーミング実習などの受講を計画。

② 指導力の修得・向上のための研修等

「全国自動車大学校・整備専門学校協会」主催の教職員研修会に参加し、若者気質の変遷、コーチング&コミュニケーション技法、問題解決手法を用いたグループ研修、ゆとり教育と基礎学力などについて受講するよう計画。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月文部科学省策定)」を踏まえ、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、学校自らが評価を行う「自己評価」はもとより、企業等の役員又は職員が学校関係者として評価に参画し、自己評価の結果を評価することを基本として行う「学校関係者評価」の実施及び公表を行うとともに、その評価結果を踏まえた教育活動その他の学校運営の改善に取り組む。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像／職業教育の特色／将来構想／周知／業界のニーズ把握
(2) 学校運営	運営指針／事業計画／規則／規程整備／意思決定システム／コンプライアンス／情報公開 他
(3) 教育活動	教育編成・実施方針／時間の確保／カリキュラム編成／工夫・開発／産学連携 他
(4) 学修成果	就職率／資格取得率／退学率／社会的活躍・評価把握／キャリア形成効果把握・改善
(5) 学生支援	進路支援／学生相談／経済支援／健康管理／課外活動支援／生活環境支援／保護者連携 他
(6) 教育環境	施設・設備／学内外実習施設・インターンシップ・海外研修／防災体制整備
(7) 学生の受入れ募集	募集活動／教育成果の正確な伝達／学納金の妥当性
(8) 財務	中長期計画／予算・収支計画／会計監査／財務情報公開
(9) 法令等の遵守	設置基準遵守・適正運営／個人情報保護対策／自己評価実施・問題点改善／自己点検結果公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献／ボランティア活動／公開講座・教育訓練
(11) 国際交流	留学生受入・派遣／留学生在籍管理／留学生学修・生活指導／評価取組

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者からの評価結果については、概ね激励や一定の評価をいただく内容が多いのが現状であるが、その内容を教員間で共有している。学校関係者より改善案が示された場合においては、その内容を真摯に検討し、必要に応じて教育内容の変更や施設・設備への投資を行う。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
梶島 大希	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 北九州事務	2017.4.1～2018.3.31	企業等委員
金丸 孝弘	株式会社ワークホイール 福岡営業所所属	2017.4.1～2018.3.31	企業等委員
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 小倉営業所所属	2017.4.1～2018.3.31	企業等委員
宮本 達也	株式会社グリーンライン保険サービス所属	2017.4.1～2018.3.31	企業等委員
穂枝 浩志	同窓会役員	2017.4.1～2018.3.31	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにて公表 URL http://www.kamc.ac.jp/self_inspection

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者が本校専門課程全般について理解を深めるとともに、当該企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、本校専門課程の教育活動や支援体制、財務状況等、学校運営状況に関する情報をホームページ上に提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要／教育方針／沿革
(2) 各学科等の教育	学科・コース概要／取得可能資格／特色／カリキュラム
(3) 教職員	教員名簿(職名、取得資格、主な担当科目)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	進路状況・実績／就職先企業／バックアップ体制／指導スケジュール
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備／実習機器
(6) 学生の生活支援	キャンパスライフレポート／年間スケジュール
(7) 学生納付金・修学支援	入学金／年間学費／諸経費／支払時期／公的奨学金制度／独自奨学金制度
(8) 学校の財務	資金収支計算書／事業活動収支計算書／貸借対照表／財産目録
(9) 学校評価	自己点検評価結果／学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL <http://www.kamc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会教養学	全般的な基礎学力向上と応用力や判断力等を含めた総合的な能力の育成並びに就職活動へ向けた企業研究の準備	1 前	26		○	△		○	○	○	○	
○			体育・競技	校外において体育的な行事を行うことで学生間の親睦を深め、心身ともに健康な体を育む	1 2 通 通	14.4				○	○	○			
		○	外国語会話	一般的な日常会話からサービスマンとして顧客に対する説明なども含めた会話力の修得	4 通	28.8		○			○			○	
		○	情報技術	情報技術(インフォメーション・テクノロジーIT)について情報とは何か、情報の取扱などについて修得	3 通	46.8		○			○		○		
		○	物理学実験	物理法則について実験で確認しながら理解を深めると同時に測定の基本の修得	3 後	46.8				○	○		○		
○			ガソリンエンジン構造	ガソリンエンジンを構成している各部品の名称と構造及び役割、電子制御システム、基礎全般についての理解及び修得	1 通	78		○			○		○		
○			ディーゼルエンジン構造	ガソリンエンジンとの違いなどを含めながら構造、機能についての理解及び修得	1 通	52		○			○		○		
○			シャシ構造	自動車のシャシ関係の名称と構造・役割及びそれらの装置の電子制御についての理解・修得	1 2 通 前	78		○			○		○		
○			電装構造	自動車電装品の主要装置について概要を知り、実際の部品と回路図を結びつけながら構造と作動の理解及び修得	1 通	52		○			○		○		
○			自動車新技術	自動車に使われている新しい技術について構造や作動を理解及び修得	2 後	26		○			○		○		
○			電子制御装置	半導体や論理回路及び電子制御装置の仕組みと制御について概要の理解及び修得	2 後	26		○			○		○		
○			自動車数学	基礎的な数学内容と自動車整備士としての計算問題の理解及び修得	1 後	26		○			○		○		
○			電気工学電子理論	電流・電圧・抵抗を基礎として電気回路、コイルの誘導作用、交流、整流作用、トランジスタの動作原理などの理解及び修得	1 3 通 前	79		○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車材料	自動車に使われている各種の材料についての特徴と用途、鋼材の性質・熱処理の方法および非鉄金属の特徴について修得及び修得	1 3 前通	25.6		○			○	○			
○			燃料・油脂	自動車用燃料の性状や潤滑油についての理論及び種類を理解し、自動車の各種潤滑油と代替燃料について理解及び修得	1 3 前通	25.6		○			○	○			
○			自動車図面	JIS規格に基づく図形の表し方や寸法記入方法を修得し、図面からその形状が理解できるように、また、製作したいものを図面に描くことができるようにする	1 前	26		○			○	○			
○			自動車の構造性能	自動車の振動・騒音に関しての防止対策、燃料電池などについての理解及び修得	3 後	27		○			○			○	
○			自動車の力学数学	1年次の自動車数学を基礎として応用的な数学内容と、より高度な自動車整備士としての計算問題の理解及び習得	3 前	14.4		○			○	○			
○			図面	CADの操作方法を学び、その機能を生かして図面作成の技術の修得	4 後	23.4		○			○			○	
○			ガソリンエンジン整備	ガソリンエンジンの性能を十分に発揮できる整備知識、主にエンジンオーバーホールと作業要領と流れについての理解及び修得	1 2 後前	52		○			○	○			
○			ディーゼルエンジン整備	ディーゼルエンジンの性能を十分に発揮できる整備知識、主にエンジンオーバーホールと作業要領と流れについての理解及び修得	2 前	26		○			○	○			
○			シャシ整備	動力伝達装置、緩衝装置、操舵装置や無段変速機(CVT)、車両安定制御装置(ABS、TRC、VSC)、エアバッグなどについて構造、機能、点検を基に整備方法の修得	1 3 後通	71		○			○	○			
○			電装整備	ハイブリッドなどの構造を主として総合的な電装品について整備内容、外部診断器の活用についての理解及び修得	2 3 前通	71		○			○	○			
○			故障原因探究	故障診断の基本を重視し不具合現象例について、フローチャートが描けるようにすると同時に電子制御への理解を高めることで診断技術の向上を目指す	2 3 後後	79		○			○	○			
○			総合整備	構造、整備、故障探究などを基に総合的にあらゆる角度から見て正しい判断の修得	2 後	26		○			○	○			
○			エンジン整備	基礎的な内燃機関の現在及び将来性を考えながら構造・整備の総仕上げ的内容とし、各センサ、アクチュエータ、ECUの構造・機能・電気回路の構成と点検を含む信号電圧点検についての理解及び修得	3 通	45		○			○	○			
○			シャシ電装整備	警報装置、オートエアコン、通信システム等、ボデー電装について構造・機能及び整備方法の理解及び修得	2 前	26		○			○	○			

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合診断	情報提供として必要になる「受付」「問診」「整備内容説明」等における知識及びこれらを活用した応酬話を学習・修得し、これらの知識をもとにロール・プレイを実施する	3後	30.6		○			○				○
○			環境保全	自動車を主として地球規模の環境保全の必要性、問題処理についての理解及び修得	3前	11.7		○			○				○
○			安全管理	職場における安全作業などについて無事故を達成するための方法などについての理解及び修得	3前	11.7		○			○				○
○			ソーシャル	ビジネスマナーの考え方や身だしなみ、話し方、言葉遣いなど社会人としてのルールなどを修得	3前	27		○			○				○
○			経営学	リーダーとして、あるいは整備士が経営にかかわり企業を発展させるための基礎的知識の修得	4前	16.2		○			○				○
○			マーケティング	商品やサービスを研究開発・生産・広告宣伝・販売・流通・会計・財務など一連のプロセスについての修得	4前	27		○			○				○
○			パワーエレクトロニクス	電子機器に使用される素子などの性質について実験を通して学び、半導体の性質とその使い方を実験を通して理解及び修得する	4前	28.8					○	○			○
○			モータ・自動制御	マイコンによってLEDに流れる電流をPWM制御で変化させ、明るさの制御を学び マイコン及びインバータによって三相交流を発生させ、三相誘導電動機を駆動させ理解及び修得する	4後	86.4					○	○			○
○			整備機器	自動車検査用機器の正しい使用法、保守管理及び機器に該当する道路運送車両法の基本的な検査基準を実際の機器で確認しながら修得する	1 3 通前	66.4		○			○				○
○			自動車検査	自動車整備士として実務である定期点検及び整備事業関係法令の重要性やモラルの理解及び修得	2 3 後前	35		○			○				○
○			自動車法規	道路運送車両法、保安基準を修得することにより、安全確保・環境保全を図る	2 3 前後	40.4		○			○				○
○			手仕上げ工作機械工作	工作機器を使って簡単な部品などの作製を通して、正しい工作機器の取り扱い方法の修得	1 3 前前	30					○	○			○
○			基本測定	自動車整備に関わる測定機器を使用して、その正しい使用方法と数値の読み方を修得する	1 前	45.6					○	○			○
○			応用計測	インピーダンスについて学習し、実験を通して理解を深め修得する。また、コンパレータやオペアンプなどのアナログ演算器についても学習する	4 前	14.4		△			○	○			○

(工業専門課程 一級自動車整備科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車整備作業	自動車を構成している部品の取り付け位置の確認と分解・組み立て・点検・調整方法の理解及び修得	1 2 3 通 通 通	1554.4				○	○		○	○	
○			自動車検査	自動車の日常点検、定期点検、車検整備などを行い、検査ラインを使用しての確認作業を通して理解を深める	2 3 後 後	67.6				○	○		○	○	
○			体験実習	企業と連携し実務実習として実際の現場で体験を行う	4 前	220				○	○	○	○	○	
○			評価実習	体験実習の効果や理解度の確認を行う	4 通	600				○	○		○		
合計					45科目	4031		単位時間(単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
当該科目のすべての授業に出席し、学期末の評点が1,2年次60点以上、3,4年次70点以上であること。ただし、3年次への進級は2年次修了後、国家試験で二級ガソリン及び二級ジーゼルの両方を取得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。